

令和2年度第2回さいたま市青少年宇宙科学館運営委員会 会議録

1 開催日時

令和3年3月19日（金） 10時00分から11時30分

2 開催場所

宇宙劇場 5階 第3集会室

3 出席者

【委員：6名】

- ① 中島 雅子 委員長
- ② 大向 隆三 委員
- ③ 溝口 景子 委員
- ④ 平川 和明 委員
- ⑤ 木村 良治 委員
- ⑥ 豊田 由香 委員

【事務局：4名】

- ① 竹居 秀子（生涯学習部長）
- ② 引間 陽子（参事兼青少年宇宙科学館長）
- ③ 佐藤 義将（青少年宇宙科学館事業係長）
- ④ 末吉 康崇（青少年宇宙科学館管理係長）

4 欠席者

浅倉 眞佐子委員、長嶋 美知子委員、冨田 英雄委員、上原 一孝委員

5 議題

- (1) 令和2年度事業報告について
- (2) 令和3年度事業計画について

6 審議内容

- ・ 議題（1）令和2年度事業報告及び（2）令和3年度事業計画について、事務局より配布資料に基づき説明した。

豊田委員	プラネタリウム入場者数について、今年度は学習利用が無かったと思うが、令和元年度の入場者数には、学習利用は含んでいたのか。
佐藤係長	令和元年度の入場者数については、学習利用が含まれている。その意味では、今年度は一般利用のみなので、多くの入場者があったと考えている。
豊田委員	学習利用が無くてもこれだけの入場者があったことは素晴らしいと思う。
大向委員	3点伺いたい。1点目は、「宇宙のまち さいたま」フォーラムが、大変盛況であったことは分かったが、令和3年度に向けて展開するイベントは何か。2点目は、「市民の日特別ワークショップ」の具体的な内容は何か。3点目は、宇宙飛行士になりたい子どもは多くいると思う。例えば、宇宙飛行士の訓練の体験などができる機会があるといいと思うが、いかがか。
佐藤係長	「宇宙のまち さいたま」フォーラムに関しては、新規の大学や企業との連携を増やすことによって、最新の情報を提供していきたいと思っている。また、「若田宇宙飛行士アカデミー スペースコース」の修了生が、来年度は新設の「アドバンス」に進み、参加者が発表できる場としても、さらに拡充していきたいと考えている。 2点目の「市民の日特別ワークショップ」の内容については、1例としては、バルーンロケットを予定している。 3点目の宇宙飛行士の体験については、「若田宇宙飛行士アカデミー スペースコース」において、宇宙飛行士の試験の模擬体験を予定している。1例としては、真っ白な紙がパズル状になっている「ホワイトパズル」の体験を考えている。
豊田委員	科学館に在籍していた期間に、若田さんは2回フライトをしている。子どもたちに若田さんの素晴らしさをどのように伝えるか、一生懸命やってきたが、今の子どもたちは若田さんを知らない子が多い。科学館がその発信源になってほしいと思っている。 「若田宇宙飛行士アカデミー ロボットコース」の倍率が4倍と伺った。参加者が15人ほどなので、予算的に難しいとは思いますが、回数を増やすということも検討してもいいのではないかと。
佐藤係長	さいたま市の広報番組「のびのびシティさいたま」において、若田さんが取り上げられますので、是非ご覧いただければと思います。
竹居部長	どうすれば若田さんのことを広められるか、豊田委員自身のご経験から、またPTAとして何かアイデアがありましたらお聞かせいただきたい。

豊田委員	私が科学館在籍時に実施したことだが、子どもたちの声や写真をISSに届けたり、各クラスに若田さんのポスターを貼ったりした。また、若田さんの出身校以外の学校とも連携を図ったり、宇宙授業を多く実施したりした。できるだけ多くの子どもたちに広めることが大事だと思う。
溝口委員	コロナ渦で色々なことを我慢している子どもたちにとって、夢のあるスケールの大きい話は、とても大切なことだと思う。これからICT教育がさらに進むと思うので、PTAとしても連携できたらいいと考えている。
木村委員	前回、航空会社と自治体、日本未来科学館、JAXA が連携し、アバターロボットを活用している話をしたが、コロナの影響により、現在中断しているようである。また、再開したら、私も情報提供等できるのではないかと考えている。
平川委員	若田さんのことを知らない子どもたちが多いというのは、子どもの興味が多種多様になってきていることも関係していると思う。私もロケット教室の際などに知っている子はよく知っていると感じるが、普段宇宙のことをあまり考えていない子どもたちに知ってもらいたいと思っている。科学館が作成したリーフレットも効果があると思うし、もう少し言えば日常で宇宙を体感できるようなことができれば、興味を持つ子どもも増えるのではないかなと思う。
中島委員長	ICT を活用するのであれば、双方向でない子どもは見えないと思う。また、大人と子どもと一緒に楽しめるものがあると良い。
竹居部長	大人も参加できることはオンラインでのメリットだと思うが、他のメリットは何かあるか。
中島委員長	ZOOM などは、多くの人どこにいても参加できる。人との触れ合いも感じることができる。
竹居部長	科学館は施設という性質上、人数制限があるが、オンラインであれば制限がなくなり、ダイナミックにできると感じた。
平川委員	私もオンラインの際に、実際に会うより話が弾んだという経験がある。
中島委員長	若田さん関連以外での事業については、科学館としてどのように考えているか。
引間館長	「宇宙のまち さいたま」教育プロジェクトの基本的方向性を大事に考えており、子どもたちに宇宙や科学の専門的知識を身につけてほしいと思っている。その中で若田さんともリンクさせながら、教育プロジェクトを推進していきたい。

竹居部長	私は GIGA スクール構想の会議に参加しているが、子どもたち 1 人パソコン 1 台になった時には、科学館のチラシも子どもたちのパソコンに入れていくという話もある。そうなると、若田宇宙飛行士が出発に向けて、今どんな訓練をしているのかなど、タイムリーに発信できるのではないかと考えている。
平川委員	若田さん以外にも、様々な形で宇宙に携わっている人や企業があると思う。そういった部分にフォーカスすることもいいと思う。
佐藤係長	「若田宇宙飛行士アカデミー スペースコース」におけるキャリア教育に関わる部分でもあるが、来年度に向けて県内・市内でどのような企業が宇宙に携わっているか、開拓している状況ですので、情報をいただければお願いしたい。
竹居部長	堀江貴文氏と一緒にロケット製作に関わっている埼玉県出身の稲川氏という方もいる。企業も含め、他にも探せばいるのではないかと。
木村委員	宇宙の観点から見た SDGs の取組は何かあるか。
引間館長	科学館としては、SDGs の「教育」「エネルギー」「技術」という 3 つの目標に関する取組を行うこととしている。
竹居部長	さいたま市教育委員会として、学校と生涯学習施設において SDGs のどの目標に力を入れているのかまとめている。生涯学習施設については市 web サイトへの掲載のほか、冊子を作成し社会教育施設に置いているので、是非ご覧いただきたい。

7 閉会